

大学オープン化情報DBの発展型ソリューション提案例

大学の情報公表が事実上、義務付けられる状況にあつては下記「大学が公表する情報」は各大学で一元化され、DBの形態となると考えられる。そのDBのより有効な活用のため、次の一手が求められることになる。

次の一手は？

そして、その一手の導入においては教職員の協働がより考慮され、導入後の運用において双方の作業の軽減[省力化(自動化・無人化)]や[コスト削減]が実現されなければならない。そこで、ここでは多様なアウトプットをテーマに発展型ソリューション提案の一例として「Webと印刷媒体との融合ソリューション」についてまとめてみる。

本当に伝えたいことを本当の価値を伝えなければ！

大学が公表する情報

1. 教育研究上の基礎的な情報
 - (1) 学部、学科、課程、研究科、専攻ごとの名称及び教育研究上の目的
 - (2) 専任教員数
 - (3) 校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境
 - (4) 授業料、入学金その他の大学が徴収する費用
2. 修学上の情報等
 - (1) 教員組織、各教員が有する学位及び業績
 - (2) 入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在学者数、卒業(修了)者数、進学者数、就職者数
 - (3) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画(シラバス又は年間授業計画の概要)
 - (4) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準(必修・選択・自由科目別の必要単位修得数及び取得可能学位)
 - (5) 学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援
 - (6) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報
3. 財務情報



Webと印刷媒体との融合ソリューション

こんな事が実現可能に

マニュアル

研究業績集

●●論文集

アニュアルレポート

各種マニュアル

トラブルシューティング

FAQ

定款・規約

etc...



1. コスト削減

編集・管理コスト1/4 (75%カット) が実現

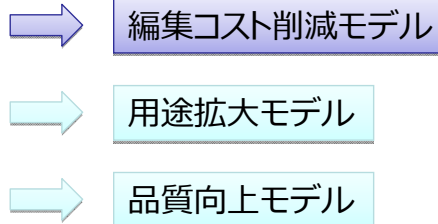
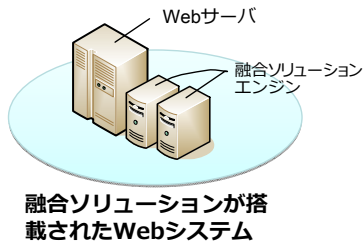
2. 品質向上

「レイアウトが美しい」「読み易い」が実現

3. 用途拡大

マルチメディア化が実現

Webと印刷媒体との融合ソリューション



自動編集システム

- マニュアル
- 業績集
- アニュアルレポート
- 辞書／便覧
- 定款／約款／規約
- フリーペーパー
- 名簿／名刺 など

Webと印刷媒体との融合ソリューション

ブログ感覚でマニュアル等を簡単ライティング

マニュアル等の作成工程で必要になる版下作成の工程を自動化することで、DTP工程の大幅なコスト削減はもちろん、Webインターフェースによるマニュアル執筆ツール、フォームによる版下作成時の体裁・デザインの統一、複数のマニュアル等の管理を実現する。
Webへの展開も可能になる。



1. コスト削減

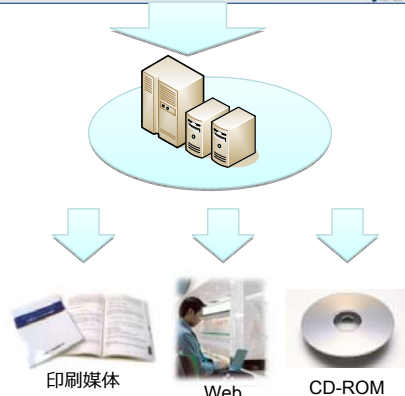
作成コスト4分の1（75%カット）が実現

2. 品質向上

「レイアウトが美しい」「読み易い」が実現

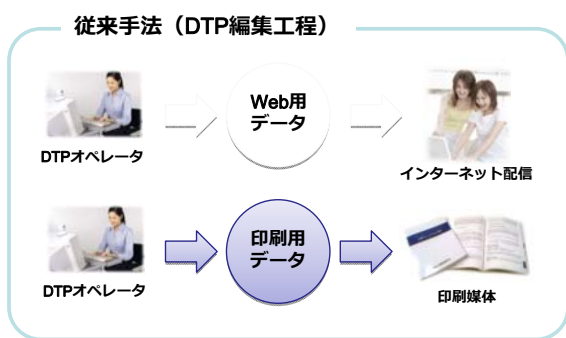
3. 用途拡大

マルチメディア化が実現



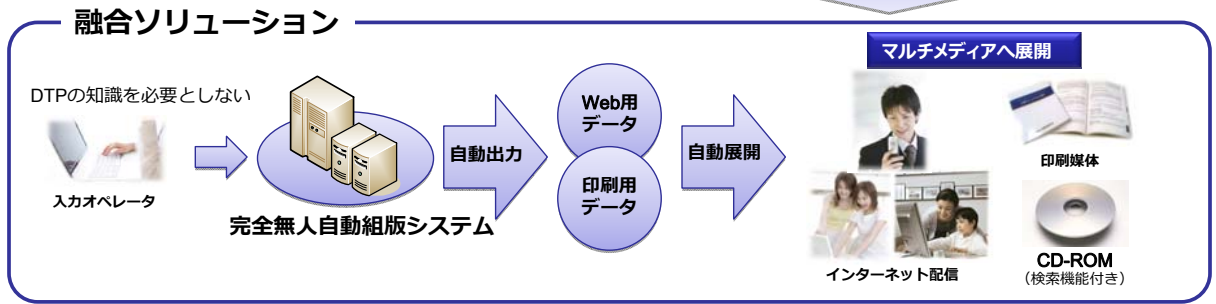
Webと印刷媒体との融合ソリューションの概要

ワンソースマルチユース という概念 ⇒ 一つの情報をマルチメディア (Web/印刷/CD-ROM など) へ出力する事が求められている。

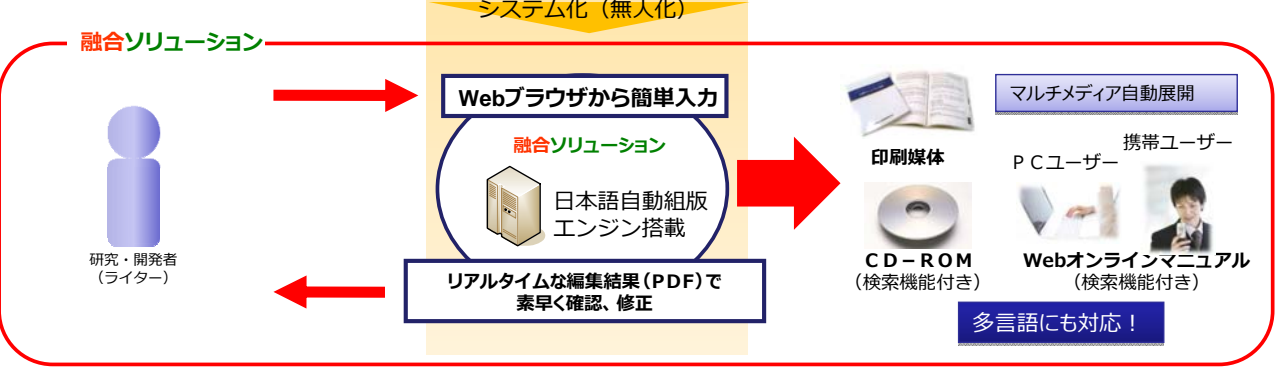
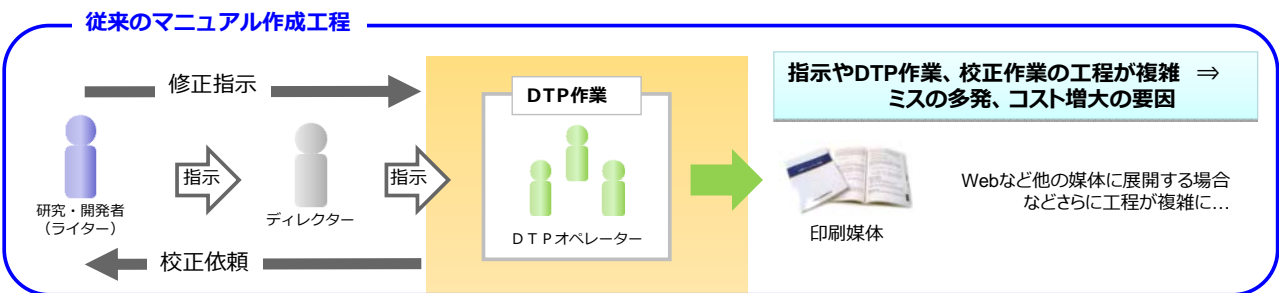


従来のDTPを中心とした編集工程では、**【Web用データ】**と**【印刷用データ】**が混じり合う事はありません。出力媒体が増えれば、これに比例して**編集工程が増え複雑**になります。その結果、**コスト増大の原因**となりました。

融合ソリューションは、この編集工程が複雑であればあるほど効果が発揮できます。1回の編集工程でマルチメディアへ出力できるシステムが構築でき、その結果、**劇的な編集コストの削減**と**戦略的な情報サービス**が展開が可能となります。



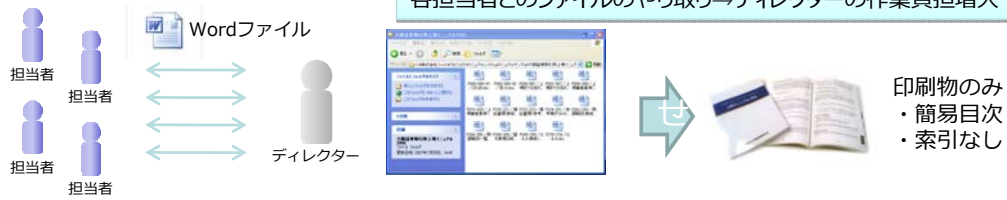
融合ソリューション～マニュアル等作成支援ASPシステム～



DTP作業 を完全に排除したワークフローが構築でき **大幅なコスト削減が実現**

マニュアル製作例

従来手法：マニュアル2008



導入後：マニュアル2010



最後に

今回の情報公表への対応は確かにいろいろと大変でしょう。しかし、このことは角度を変えれば各大学が定められた項目について一斉に情報公表をおこなうということで、内容の差や違いは当然に顕著となるものの、いわば横一線の状態。ある種、スタートラインといえるものです。ゆえに、これを好機と捉え、情報公表のため一元化されるであろうDBのさらなる充実と有効活用として、ICT技術の応用による次の一手が問われることになるでしょう。次の一手から生み出されるものこそが、その大学の本当の価値を知らしめてくれるのかも知れません。**ワンソースマルチユースという概念**を胸に次の一手を考え、例示した“Webと印刷媒体との融合ソリューション”などへの取り組みをおこなうことこそが、大学のICT部門や広報部門に所属する職員の今日的な姿のひとつではないだろうか。

ご清聴ありがとうございます